おだか子ども新聞 vol.01

2011年4月

献立は「ワカメおにぎり」みんな一緒でおいしいよ

2011年4月22日、南相馬市の小・中学校では、学校再開と合わせて「炊き出し給食」が実施されました。給食センター職員や調理員、栄養士らが協力して、自ら集めた食材で用意したのは、ワカメおにぎりなど2500食分。

鹿島区の小学校に間借りすることで学校再開を迎えた福浦小学校など、小高区の子どもたちも「いただきます」と、元気いっぱい温かいおにぎりをほおばっていました。

え／たなか みき

学校再開の日が2011年4月22日と決まりました。

栄養士さん「学校再開が決まり、2500人分の給食が必要なんです。
戻ってきてもらえませんか？」

調理員さんA「えっ　給食がないと再開できないんですね…
わかりました！」

調理員さんB「お米とわかめだけは用意できました！」

調理員さんC「おにぎり！　わかめおにぎりにしましょう。」

調理員さんD「5000こ、11時半までに！」

今日は学校再開の日。
炊き出し給食のスタートです。

四月二十二日(金)晴
おしらせ

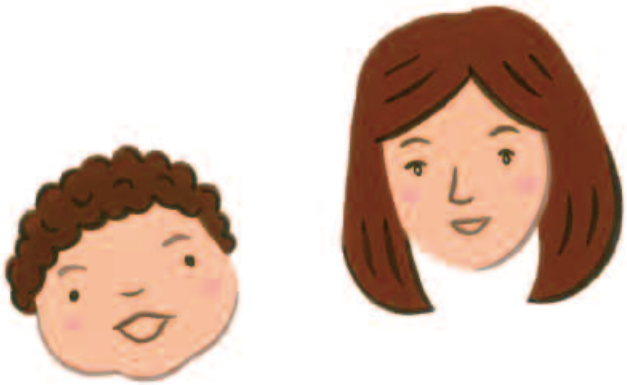
子どもたち「いただきまーす！」

あやか「あっ おにぎりあったかいよ。」

りくお「本当だ。」

7/22（金）

牛丼



7/13（水）

すいか

全国各地から
旬の食べものが
たくさん届く

子どもたち

「給食のおばさん、
おいしいおにぎりを
ありがとうございます！」

5/20（金）

カレーライス

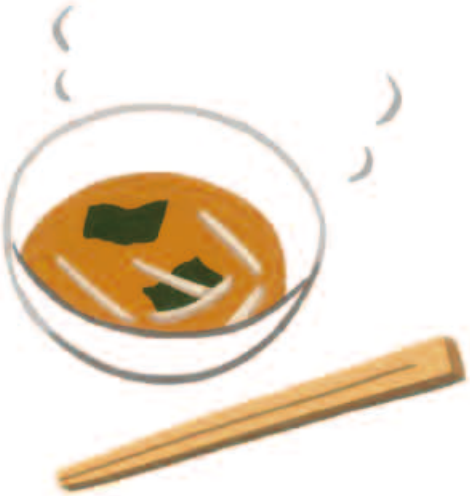
待ちに待った
こんだて登場

4/28（木）
コッペパン ＆
チョコソース

4/22（金）
わかめおにぎり

5/13（金）
みそ汁
はじめての
温かいおかず

栄養士・調理員さん
「みんなおいしく食べてくれて
ありがとねえ。」



7月22日まで61日間炊き出し給食が続きました。

おだかがっこうメモリー

南相馬市の教育委員会は、震災・原発事故後、学校再開を4月22日と決定したが、再開にあたっての大きな課題は、市内在住の小・中学校生らの「給食」2500食を用意できるかどうかだった。食材の確保も困難な中、栄養士や調理員らは子どもたちの給食のために奔走した。

子どもたちにお昼を!「炊き出し給食」61日

鈴木美智代
(すずき・みちよ)さん
2004年から学校教育課主任栄養士。

斎藤弘美
(さいとう・ひろみ)さん
2010年から2011年3月まで福浦小調理員。

食材を集める炊き出し給食スタッフ

学校再開の日取りが決まっても、2500人分の給食の用意となると、まったく見通しが立ちませんでした。青果市場の流通は途絶え、関連の業者もほとんど市外に避難していました。そんな中、市教委の学校教育課長からある提案がありました。

「炊き出し給食」。その日その日に集めた食材で、できるものを献立にする、という前代未聞の給食です。「子どもたちにみんなで一緒のお昼を」。その思いだけで、「やります」と答えていました。調理員のほとんどは市外に避難していましたが、電話で事情を話すと、家族そろって戻るのは無理だというのに、市の調理員20人全員が集まりました。

当時、南相馬市には市外からの支援物資さえ届かない状況でしたから、みんなで手分けして避難所や倉庫を回り、使えそうな食材を片っ端から持ち帰りました。学校再開前に何とかそろったのはワカメ、お米、牛乳にヨーグルト。それが初日の献立になりました。ワカメおにぎりを5000個握り終えると、調理員の手は真っ赤になっていました。「子どもたちに温かいものを」の一心だったのです。最終便が出たのは11時半。みんな放心状態でした。(鈴木さん談)

学校再開当初、調理員はみんな、子どもたちに十分にやってやれない、温かいものを出せないことに心苦しさを感じていました。湯気がたたない調理室。あるのはご飯の湯気だけでした。本来、入学時はお祝い給食を出すのに、この年は、おにぎりとヨーグルト。「ぴかぴかの1年生に申し訳ない」と、思わず「ごめんね」と言葉がこぼれました。すると、「給食のおばちゃん、いいんだよ。家ではテレビも見られなくて面白くないけど、学校だと友だちがいるし、おにぎりおいしいし」と。教室をのぞくと、みんなニコニコしておにぎりを食べていました。(斎藤さん談)

しばらくの間、調理室では、ひたすらおにぎりを握り、パンにジャムを塗る日が続きました。ジャムも同じ種類はそろわない。あちこちの避難所からいろんな種類のジャムを持ってきて、似たような系統で整理する。かき集めるとはそういうことだと知りました。

はじめて汁ものを出せたのは5月13日です。かき集めたもやしと、学校にあったワカメとみそで、みそ汁ができました。みんながそれぞれ元の学校の調理室から食器を持ち出して、ようやく出せたみそ汁一杯。家庭でもあまり温かいものを口にしていなかったようで、子どもたちは「みそ汁が出るなんてふつうの給食みたいだね」。

5月20日は、震災後初のカレーでした。肉の代わりになるものを、とためていたツナ缶を使ったのです。それはもう大騒ぎでした。「あっ、カレーだ!」「うっそ、カレーなんか出るよ!」。

*

徐々に支援物資が届くようになりましたが、栄養士が食材を工夫してそろえ、調理員とアイデアを出し合いながら当日の状況をみてつくる「炊き出し給食」は、夏休み前まで61日間続きました。